

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

4月下旬に行われた白馬村消防団の出初式、地区で開催された出初式祝賀会と地域内の堰普請。5月上旬に行われた「森上春祭

り」。地域内の高齢化と少子化の実態を痛切に感じる時期でもある。白馬村消防団は条例定数250名、数少ない団員に寂しさを実感してしまう。団員確保も地区によっては難しいとの切実な声が聞こえ、この様な厳しい状況にもかかわらず、団員報酬は交付税単価の半額程度の報酬しか支給されず、多くの不足する経費は地区が負担している。少子高齢化が年々厳しさを増す中で、地区への未加入世帯も多く、地区に加入している者だけに税外負担を

求める事が良いのか、今後も継続して行けるのか検討する時期になっているのだろう。ことしも、全国各地から学校の廃校、統廃合の情報が聞こえてきた。児童数生徒数情報ガッコンによると白馬

年近く、老朽箇所も目立ってきている。しかし統廃合の情報は数少ない事も事実。長野県信濃町では、小中学校は1つで良いとの教育方針で成果を出している先例もある。学校施設の統廃合

大きなか論議を進めてはどうだろうか。それら一連の計画の中で、廃校になる施設の活用が、地域住民にとって有意義な施設に当然なるべきだ。その構想が無ければ、廃校反対の虚しい闘争が、予想されてしまう。森上地区の春祭りは、地域が創り出したお祭りだ。毎年持ちまわりで数名の祭り世話の役員が選任され執り行われる。奉納する尾花踊りは5名の女子小学生が舞い、祭りを盛り上げる。祭りの後の宴は、組単位で用意した料理や飲み物に、

少子高齢化社会で活気を失わない地域にするための対応時間は限られている

地域の青年の会が用意した手作りの料理が各組に届けられ大いに盛り上がる。歌自慢の力ラオケが響く祭りは、地域を元気にしてくれる。和気あいあいの雰

囲気で、「住みたいなら森上へ」との思いを強くする。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)



祭り神輿の担ぎ手の年少の子供の姿は年々減少の一途だ